

平成 28 年度 公益財団法人 地域開発研究所 事業計画

(1) 奨学金給付事業

新たに支給者を 3 月中に決定し、平成 28 年度より大学生は 4 年間、大学院生は 2 年間の支給を始める。また、前年度に引き続き、現役学生のみではなく社会人や一定の目的をもった活動を目指す者を対象とした奨学金の給付も検討していく。

(2) 調査研究事業

- ・ 明治時代の大湊開港についての研究に対する助成
前年度に引き続き、大湊開港についての研究（明治から戦後まで）に対し、支援をしていく。
- ・ 不動産登記に係わる諸問題の調査・研究に対する助成
前年度の事業計画でも挙げていたが、具体的に調査するまでには至らなかった。しかし、今年度においても事業計画として挙げ、農地買収や地番の問題をテーマとして、若干の助成を行っていくことにしたい。
- ・ 地場産業品（サフラン）商品化に対する助成
地場産業品としてサフランを商品化する事業について、事業者は、前年度に引き続き最大の生産地である竹田市とタイアップして活動しているが、前年度は事業者においてサフランの株分け作業を行っており、今後はその株分けしたサフランを使って花芯を取り、その花芯を用いて地元産サフランのブランド化を目指す計画であるとのこと。この事業に対し、前年度に引き続き助成を行っていききたい。
- ・ 鉄道用地活用のコンペに対する助成
前年度にも提案していたが、資産である鉄道用地を今後どのように活用するかをテーマに、全国の学生を対象にした鉄道用地活用のコンペを開催し、その助成を行う活動を検討していききたい。
- ・ 研究テーマ（斗南藩・下北半島史・原子力政策）に対する助成
青森県に関係する公益目的に沿ったテーマとして、斗南藩以来の下北半島史を取り上げていききたい。斗南藩については郷土史家が研究しているものが沢山あり、小説の類としても出ている。当財団では、会津、斗南藩の歴史を明治政府の側に立った歴史ではなく、本当の史実というものを研究し、それを解説、説明し、広く世の中に知らせる活動を行いたいと考えている。斗南藩の前史と後史、会津や二本松と長州との関係から

始まり、斗南藩の二年間、そして其後の今日迄の開発と挫折を学び、最終的に今日のテーマである原子力と真剣に向き合う地域となるために、学ぶ機会を設けていきたい。原子力について学ぶに当たり、前年度は、「ドイツの脱原発がよくわかる本」の著者である川口マーン恵美氏を招き、ドイツの脱原発についての講演会を行った。今年度も引き続き、講演会等で原子力についての勉強会を行っていきたい。さらに今後は、斗南藩と下北半島を深く学ぶための勉強会の開催、フリーペーパーや小説の作成、高校生達や若者が参加する下北半島の近現代史研究会を立ち上げるなどの活動を行っていきたい。

(3) 自然保護事業

・植樹事業に対する支援

NPO法人GEMBUの宮脇先生の指導による植樹事業に、継続して支援してきており、学校や公共施設への植樹祭を中心とした活動の支援をする。

・むつ湾海岸のごみの回収、美化事業への支援

毎年2度行われているごみの除去、海岸線の美化に対して、トラック十数台分の不法投棄ごみが毎年取り除かれている。この継続して行われている活動に対して、付近の町内会のみならず学校関係者（児童やPTA）に広がりを見せている。この活動の費用を負担することによって、同事業の継続を支援していく。

・県内に於ける主たる花の一つであるハマナスの集団育成と観光開発に対する支援

ハマナスの集団育成については目標として掲げている10万本の半分以上の植栽を終えている。植樹用のハマナスの苗の育苗作業も順調に軌道に乗り始めている。また、ハマナスの商品化については、よりよい商品の開発に向けて更なる調査、研究を開始したところである。ハマナスの集団育成、商品化についての援助、助成は、申請があれば今年度も引き続き行っていく計画である。

以上